

第9回伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会 会議録

開催日	令和2年2月26日(木)			
開催時間	開 会	午前10時	閉 会	午前11時
開催場所	市役所 501・502会議室			
委員出席者	伊那市区長会	平澤 隆		
	箕輪町区長会	松田 篤		
	南箕輪村区長会	丸山 和敏		
	伊那中央行政組合	宮原 文彰		
	伊那商工会議所	小林 旬子		
	南箕輪村商工会	中川 博夫		
	上伊那農業協同組合	小池 良夫		
	上伊那森林組合	原 武志		
	ジェイアールバス関東(株)中央道支店	宮本 昭一		
	(有)白川タクシー	白川 光朗		
	長野県宅地建物取引業協会 南信支部	大村 裕一		
	伊那市保育園保護者連合会	池上 裕平		
	信州大学	鈴木 純		
	公募	杉山 祐樹		
欠席者	伊那市社会福祉協議会	矢澤 秀樹		
	箕輪町商工会	向山 淳		
	伊那バス(株)	福澤 信義		
	伊那市観光協会	中村 忠人		
	NPO法人子ども・若者サポート はみんぐ	戸枝 智子		
	上伊那PTA連合会	酒井 裕司		
委員以外の出席者	上伊那地域振興局企画振興課長	山邊 英夫		
出席した事務局職員	伊那市企画部長	飯島 智		
	伊那市企画部地域創造課長	唐澤 直樹		
	箕輪町企画振興課長	毛利 岳夫		
	南箕輪村地域づくり推進課長	田中 俊彦		
	伊那市企画部企画政策課長	重盛 巧		
	伊那市保健福祉部子育て支援課長	網野 喜彦		
	伊那市総務部総務課長	飯島 伸一		
	伊那市商工観光部産業立地推進課長	平澤 浩		
	伊那市商工総務部秘書広報課長	泉澤 正広		
	伊那市企画部地域創造課人口増推進係長	田中 久		
	伊那市企画部地域創造課人口増推進係	伊藤 貴		
	箕輪町企画振興課まちづくり政策係長	小笠原 岳大		

	南箕輪村地域づくり推進課企画係長 山口 弘一郎
議 事	(1) 平成 30 年度共生ビジョンの進捗状況について (2) 平成 31 年度各部会の取組状況について (3) 伊那地域定住自立圏共生ビジョンの改定について (4) 伊那地域定住自立圏共生ビジョンの改定 (案) について
配布資料	資料 1 伊那地域定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について 資料 2-1 空き家バンク利用実績 資料 2-2 「病児・病後児保育施設」「子育て支援センター」利用実績 資料 2-3 「伊那本線」「市街地循環バス内回り」利用実績 資料 2-4 ドアツードア乗合タクシーの実証運行について 資料 2-5 合同研修実績 資料 2-6 産業振興事業進捗状況 資料 3 伊那地域定住自立圏共生ビジョン【第 4 版】 資料 4 デジタル・ディバイドの解消へ向けた ICT インフラ整備 (案) 資料 5 伊那地域定住自立圏 経過

1 開 会

2 会長あいさつ

定住自立圏共生ビジョン協議会は今年度初めての開催となる。本日は、共生ビジョンの具体的な取組事項について、取組内容の報告や実績、成果指標などの進捗状況の確認と共生ビジョンの改訂についての協議を予定している。

3 市町村の住民の皆さんが住みやすい地域となるよう活発な議論お願いするとともに、円滑な議事の進行にご協力をお願いしたい。

3 会議事項 (進行：平澤会長)

(1) 平成 30 年度共生ビジョンの進捗状況について

会 長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： (資料 1 により説明)

会 長： 説明内容について、御意見、御質問等はあるか。

委 員： 実績があがっていて素晴らしいと思う。病後児保育の利用者数が減っているが、全体の利用率はわかるか。

事務局： 手元に資料ないため、後日報告させていただく。

3 市町村の利用対象児童 1 歳から 6 歳の総数に対する登録者率は、平成 28 年度が 8%、平成 29 年度が 12%、平成 30 年度が 10%。

(2) 平成 31 年度各部会の取組状況について

会 長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： (資料 2 により説明)

会 長： 説明内容について、御意見、御質問等はあるか。

委 員： 交通ネットワークの関係で、資料 1 に既存路線との接続の相乗効果による活性化とあるが、どのような形で検証されているか。各市町村から見解を伺いたい。また、他市

町村のダイヤが見られるといった具体的施策を行っていただければ伺いたい。

事務局： 部会としての取組では、バス乗り放題デーの設定により、広く利用者を求めることで周知を図っている。また、高齢者へのチラシ配布。各市町村でのホームページの掲載を行っている。

事務局： 伊那本線近くに会場がある夏の「みのわ祭り」で乗車を促すチラシ配布や景品イベントを行った。

事務局： 特別な実施はないが、共通で実施している乗り継ぎの周知や割引などで徐々に効果が出ていると考えている。

委員： 乗り継ぎ割引の実績による利用の統計は取られているのか。

事務局： 本日は数値を持ってきていないため、報告はできないが、乗り継ぎ割引は協議会からの補填があるため件数は把握できる。

委員： みのわ祭りへ伊那本線を使っていけるという情報が他市町村の住民に伝わるのが重要ではないか。情報が伝わるのが既存の利用者のみとなってしまう。また、バス乗り放題デーも使用したことのない人に向けての周知が重要である。

会長： 今の意見は大切な意見だと思う。伊那にいてもバスを運行しているということを知る機会を増やすことは大切だと思う。

委員： 職員の研修事業について、防災の取組や学ぶ機会についてはどのように考えているか。

事務局： 昨年の台風 19 号もあって、広域的に連携していくことが重要である。来年度事業については 4 月に部会を開催予定し決定する予定。事務局から防災についての取組は提案したいと思う。

委員： 合同研修は将来に向けて重要な取組だと思う。一方で研修だけでは行政区を超えての活動が難しいのではないかとと思う。それについてはどのように考えているか。

事務局： 10 月に行った自治体経営研修は 5 年後、10 年後をシミュレーションする研修で、今後を担う若い職員に受けてもらっている。自治体経営研修については他の自治体では議会や市民の参加もある。ビジョンの中には記載ないが今後検討していきたい。

(3) 伊那地域定住自立圏共生ビジョンの改定について

会長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： (資料 3 により説明)

会長： 説明内容について、御意見、御質問等はあるか。

委員： AI 配車について現在は伊那市のみの実施であるが、将来的には箕輪町、南箕輪村での実施は検討されているのか。供給能力の問題もあり同じ仕組みでの実施は難しいと思う。現状の考えについてお伺いしたい。

事務局： 町の公共交通のあり方についてバス、タクシー事業者と検討している。来年度は町内に広げて検討を行っていく予定で、その中に AI タクシーの選択肢もある。

事務局： 村の公共交通のあり方を検討の中では AI タクシーの選択肢は入っていないが、現在の運行エリアにはバスの運行がない区域があるため、状況を見ながら判断していきたい。

委員： 定住自立圏の肝となるのは公共交通。この公共交通の利用者を増やすことが大切。認知度が低いという点があるが、人口構成が変わる中では公共交通がより重要となつて

くる。3市町村それぞれの考えがあると思うが、公共交通については思い切って統一して利用する方向性を示してもらいたい。交通弱者の政策は重要である。また、計画期間の5年間の後はどのようなになるのか。交付税措置が無くなって運行ができなくなってしまうということか。

事務局：公共交通のあり方は部会を2カ月に1度開催しているが、頻度を上げて実施できればと思う。現在は中心市が8割、連携町村は10割交付税の補填がある。5年後については、ビジョンを継続する、または交通対策の特別交付税の措置を受けるかいずれかを選択して継続して運行したい。

(4) 伊那地域定住自立圏共生ビジョンの改定（案）について

会 長：事務局から説明をお願いします。

事務局：（資料4により説明）

会 長：説明内容について、御意見、御質問等はあるか。

委 員：ケーブルテレビの加入率はどれくらいなのか。加入率が低いようなら公共性が低いのではないか。

事務局：65%くらいの世帯が加入している。

(5) その他

特になし

アドバイザー：本日は平成30年度の進捗状況の確認があった。昨年の同時期開催の協議会の中ではKPIの修正があったため、KPIの設定が適正に行われているのではないかと。

この定住自立圏の取組は人口減少社会において1自治体がフルセットで行政サービスを提供することが困難な中で、定住自立圏の動きが重要になってくる。新たな地方創生総合戦略の中でも地域間連携が重要視されている。新たなビジョンの取組を加えて、一層の地域間連携事業を進めていただきたい。

4 その他

事務局：定住自立圏共生ビジョン協定の変更を3月定例議会で各自治体の実施予定。次回協議会は令和2年4月下旬ごろの開催を予定。

5 閉 会